

平成29年度第1回社会教育委員会議録

日 時 平成29年5月30日(火)

15:00～17:00

場 所 本庁舎9階第2委員会室

出席委員 山口議長、小林副議長、池永委員、大澤委員、榎本委員
奈良委員、藤島委員、松尾委員（8名）

欠席委員 中川委員、辻委員（2名）

事務局 教育委員会教育部：瀬能部長、山口次長
生涯学習課：鍛冶課長、斉藤主査、杉本主査（担当）

1 開 会 （進行） 鍛冶課長

2 挨拶

山口社会教育委員会議議長

瀬能部長

※新委員紹介 苫小牧市小学校校長会 奈良委員

※胆振管内社会教育委員永年勤続表彰

表彰者 苫小牧市社会教育委員 副議長 小林委員

3 議 事

(1) 第五次生涯学習推進基本計画策定の進め方について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

質疑なし

(2) 第四次生涯学習推進基本計画の検証について
資料に基づき、事務局から説明（30施策毎に質疑を実施）

◇施策No.1番から30番について説明◇

《質疑の主な内容》

議長：施策No.1番から30番までで、質問、ご意見ございますか。

委員：全体的な話になるんですが、私がいくつか参加したのものがあるなど説明を聞いていたんですが、評価の中で、これは凄く良かったなと思ったものが“B”評価で、これはあまり凄くなかったなと思うのが“A”評価となっているんですが、この“A”とか“B”は事業をやったから“A”だったとか、それとも皆さんのニーズに応えられたから“A”とかこれは、それぞれの担当課での判断なんでしょうか。

事務局：各事業は担当課で行なわせていただいておりますが、各評価につきましては、担当課での自己評価となっているなかで、事業を行い目的と評価の指数は各課でもってはおります。この中で、担当課が市民生活課とあるものは、コミセンの関係ですが、実はコミセンの評価のほとんどが“B”評価となっております。それにつきましては、コミセンは現在、指定管理者制度となっており、指定管理者としては、自分達の事業はある程度行っているんだけど、まだまだ、改善する余地があるのではというところで“B”評価を付けたりしているとのこと。

申し訳ございません、各担当課で“A”“B”“C”とかどうやって付けているのか、“C”については、何らかの理由があると思うんですが、“A”については、各課概ね達成している、“B”については、まだまだ改善の余地があるのではというところでの評価となってきているのではないかと、各課に1事業毎に確認はしておりません。申し訳ございません。

議長：この評価は毎年揉めるんです。どうして“A”なんだ“B”なんだと。担当課が勝手に決めているのではないかと。要するに、自課だけで自己満足しているのではないかと。もう少し足りないのではないかと意見ができるんです。けども、委員として評価を出せば、後は担当課がどう判断するかということですから。

委員：意見ではないんですが、今説明された中に「特殊学級」とおっしゃっていましたが、現在は「特殊学級」はないんです、現在は「特別支援学級」になっているんです。その辺はきちんとしていただきたい。

部長：申し訳ございません。私も説明を聞いておまして、これはまずいなと思っておりました。ここは、訂正させていただきたいと思います。

委員：事務局、これだけの資料つくりのは大変だと思うんですが、所管課評価理由のところ、“A”は分かりますが、“B”のところ、理由が入ってないところがあるんです。書いてあるところは、ああ、こういうことかと分

かるんですが、出来れば簡単なコメントでいいから、例えば“B”のところで、まだまだ拡大が出来るとかね、これなら分かるんだけど、“A”はいいですが、今後余裕があれば簡単な長くなくていいので、入れていただければと思いますよ。

議 長：“B”評価には、簡単でいいので、入れていただけると分かりやすくなりますね。

委 員：質問ですが、施策の中で、1つの事業でいくつもの施策をクリアしていくようなことですか。似たような施策がいくつもあるんですけど。評価が同じようなものが、例えば18番の美術博物館で出前講座、学芸員の派遣とありますが、これでいくつもの施策をカバーしているんですね。

事 務 局：具体的な施策、例えば1番「家庭の教育力の向上のための相談体制や学習機会の充実」を達成するために、この事業を行いましたという、つくりになっています。

委員の皆様方にはこの事業を通じて、この具体的な施策が実際に達成されているかという観点と次の計画にこの事業より、さらにこうした方が良いんじゃないかとか、この事業は時代のニーズにマッチしていないので取り組みを一步下げるといった形を取ったほうが良いんじゃないかという形で評価をいただく資料となっております。具体的な施策を達成、この事業を基に達成されているか、という観点で資料を見ていただきたい。ご質問の答えになっているか、微妙なところがありますが。

委 員：同じ事業があります。1つの事業で、いくつもの目的を達成することもあるということですね。

事 務 局：そうです。

委 員：わかりました。それで、この評価というのは事業評価ですか、それとも事業の目的に対する評価ということですか。

事 務 局：事業としての評価となります。

委 員：目的としての評価ではないんですね。

事 務 局：はい、事業としての評価となっております。

議 長：いいですか。事業の大前提があって、各課で取り組んで結果がどうだった

かということとです。我々の評価は、目的に対して1課の取り組みで判断するのではなく、相対としての評価で良いんじゃないかと私は理解しております。

続けて事務局の説明をお願いします。

◇施策No.1番から30番について説明◇

《質疑の主な内容》

議 長：施策No.31番から60番までで、質問、ご意見ございますか。

委 員：1つ教えて欲しんですが、No.42番に生涯学習のボランティア推進とありますが、生涯学習ボランティアとはいったいどういうものか、意味が分からない。いろいろな事業の中に、生涯学習ボランティアとあるが具体的にどういうことをやるのかと。

事務局：物凄く広いと思います。障がい者のパソコン教室だとか読み聞かせとか。

委 員：そうじゃなくて、No.42の生涯学習ボランティアの育成とありますが、そもそも生涯学習ボランティアとは何のボランティアをやるんですか、言葉の意味が分からない。

議 長：生涯学習は分かるんですが、次にくるボランティアとは何ぞやと。

事務局：昨年開催しましたボランティア講座は、「みんなで学べば面白い」ですが、中身までは把握しておりません。

議 長：そうではなくて、生涯学習ボランティアの概念は。

事務局：例えば、何も学んだことがない方をサポートする。こういうことをして学んではどうかとか、一緒にやって学びをサポートする、という位置づけが生涯学習ボランティアになろうかと、そう受け取っておりましたが、その養成講座として、「みんなで学べば面白い」、というような形でボランティアとして学ぶ活動、少しいメージが沸きづらいと思いますが。

議 長：生涯学習をサポートするボランティアなんですよね。

事務局：そういうことです。

議長 生涯学習は、小さい子からお年寄りまでやらなければならない。そういう全体を通じてサポートするということですね。

事務局：はい、そうです。

議長：事業に、概念に生涯学習サポートと付けてしまうから、何かなと思ったんです

委員：確かに、障がい者パソコンボランティアとは分かるけど、打ち間違えではないですよ。

事務局：打ち間違えではないです。

委員：No.42の生涯学習ボランティアの育成とありますが、見ている人も受講生もこれは何かなと思うのでは。もっと分かりやすく広報してあげると良いと思いますよ。それで、養成講座を実施して、活動に結びついていないとはどういうことですか。

事務局：ボランティア養成のための講座を開設しましたが、なかなか人が集まらなかった。そして、その講座を受けた方がサポート、ボランティア活動につながらなかったということで、少し評価が低くなりました。

委員：1点いいですか。昨年、科学センターの館長と話しまして、科学センターに出入りしています、団体・企業、以前に講座や教室を行った団体を集めて、3回ほど話し合いを行いました。内容は、その団体や企業のことをホームページに掲載してPRすると、実際に掲載していますけど、とても素晴らしい取り組みとと思っているんですが、今回の評価にはその部分は含まれているのでしょうか。含まれていないようなので、とても残念に思っているんですが。

事務局：科学センターとの聞き取りでは、今委員がおっしゃいましたことについて、聞いております。科学センターで行う事業でなくても、お世話になっている企業の情報だとか、事業についての掲載などリンクさせて、情報誌に載せてPRし、参加企業の全体の取りまとめを行っているとのこと。今回の評価にも入っております、企業との連動や情報発信の部分には、それを含めての評価と。

委員：入っているとのことですが、記載がなかったものですか。何処に入っているのか。No.32のホームページの充実とあるから、そこに入っている

のかと思ったんですけど、入ってないようですので。

事務局：聞き取りの中では、間違いなく入っているとのことですので。再度確認いたします。

委員：確認ですが、この評価票に我々の評価を記載して、事務局に送るということでいいんですかね。

事務局：はい、そういうことになります。

(3) 生涯学習に関する市民アンケート年代別結果について
資料に基づき、生涯学習課長より説明

《質疑の主な内容》

委員：ちょっと言葉の意味が解らないところが、趣味的なものとはどのようなものですか。

事務局：趣味的なものとは、例えば手芸とか、実際のアンケート用紙には記載しておりましたが。

議長 陶芸とかもそうなんですよね。

事務局：アンケート用紙の中の趣味的なものとは、「音楽」・「美術」・「絵」・「華道」・「舞踊」という形で、それが趣味的なものとしております。教養的なものとは、「文学」・「歴史」・「科学」・「語学」について学んだという講座、となっております。

委員：そういう内容なんですね。因みに健康づくりとはどういうものですか。

事務局：健康づくりとして、スポーツとか、ヨガであったりとか、健康学、例えば病気について学ぼうとかですね、そのような講座についても健康づくりとして扱っております。

委員：もう1点。質問2に、生涯学習の目的はとありますけど、生きがい・仲間づくりを1つの項目として括りますか。括りかたとしておかしくないですか。明らかに違うと思うんですが。もし、設けるのであれば、別項目の方が良かったんじゃないですか。

委員：最初の質問に、この1年間に何らかの生涯学習活動を行いましたか、とありますが、この活動は市が主催した事業のことですか。

事務局：市が主催だけではなく、個人で行ったものも含まれます。

議長：生涯学習はエリアが広いから大変だと思うんです。趣味的な問題にしても、学問的な問題にしても、これはこっちとか、なかなか分断できないことはあって、このような表現を使わざるを得ないんでしょうね。

(4) 他市の生涯学習計画の概要

資料に基づき、事務局より説明

《質疑の主な内容》

議長：他都市の生涯学習の概要でありますけども、難しいところもありますけども、委員の皆様方の参考にしていただきたいとのことです。

委員：北海道が目指す生涯学習の姿とありますけども、その中で地域の課題や良さを学ぶとありますが、苫小牧市の地域とは、例えば、町内会なのか地域のコミュニティーなのかと思ったんですが、北海道の場合、地域の課題とは地域とは何処があるんですか。

事務局：例えば、函館、釧路、稚内、えりもだとか。

委員：そうすると、苫小牧市とか、市の単位ということですね。

事務局：地域ごとの課題として、例えば、苫小牧市であれば、港とか、千歳であれば空港とか、それぞれの地域の特性を活かしてと思っておりますが。

委員：苫小牧での地域となればとても狭くなってしまいますので、地域のことだけで考えていいのか、地域間の連携ということも考えなければと思ったものですから。

議長：それぞれ全道の地域は、その地域にあった施策を考えております。社会教育委員全道大会とかあり、各地域の委員さんたちが集まってきましたけども、分科会で意見など出てきます、そうすると地域での特色を活かした生涯学習を目指しているところが多いですね。苫小牧を地域と考えると、町内会

単位での感じになるのかなと。

苫小牧の町内会は、青少年が役員になっているところ、桜木町と柏木町がありますけど、これを最初にやったのが札幌の清田区なんですよ。高校生を町内会活動に参加させる、こういうことを取り上げたりして、苫小牧でももう少し広がってもいいじゃないかと考えていますけども、教育行政からどうのこうのとはならないと思うのでね、下から持ち上げた話なんでね。僭越な話で申し訳ないんですけど。

他市の部分は、あくまで計画を策定するために参考にさせていただきたいとお願いと思いますので、この場で、他市どのようなことをやっているとかね、事務局でも答えられないと思うし、少し一杯一杯ですからね。少し嫌味を言います。

4 その他について

事務局より、次回開催予定説明及び第四次生涯学習推進基本計画の検証結果の提出依頼。